

急速に強まる米利下げ期待、米雇用統計などへも注目集まる~米雇用統計、ISM製造業

2020年3月2日(月)

新型コロナウイルスの感染拡大が世界的に広がる中、米株の急激な下げなど、米国市場でも大きな混乱が見られ、ここにきて3月17日、18日のFOMCでの利下げ期待が広がりつつあります。

2月20日時点ではほとんど見られなかった3月FOMCでの利上げ見通しは、先週末の時点で、短期金利市場ではほぼ織り込む動き。

それどころか短期金利先物市場では4月の連続利下げすら織り込みに行こうという動きまで見られました。

とはいえ、今年一年の据え置きが見込まれていた状況から、一気に利下げに向かうことができるか。新型コロナウイルスの感染拡大による景気鈍化懸念という観点からは、まだ影響を見極めるには時期尚早という見方もあり、微妙なところという印象です。

こうした状況を受けて、利下げ実施の見極めに向けて米主要指標に対する注目度がかなり高まってきています。

そうした中、今週は2日に2月の米ISM製造業景気指数、4日に2月の米ADP雇用者数と同ISM非製造業景気指数、6日に2月の米雇用統計が控えています。特に注目は2日のISM製造業景気指数と6日の米雇用統計です。

まず、発表の早いISM製造業景気指数から。

12月の同指標が予想を下回って2009年以来の低水準となる47.8を記録した同指標でしたが、前回1月分は予想を上回る好結果に。米中通商協議の第一弾合意が好感され、予想の48.5だけでなく、景気判断の境となる50.0もしっかりと上回る50.9を記録しました。

ただ、アンケート調査の時期的に新型コロナウイルスの感染拡大懸念が広がる前の回答がほとんどと見られ、同件の影響が出た今回はどこまで悪化しているのかが注目されるようになっていきます。

予想は50.5とわずかながら鈍化も、重要なポイントとなる50.0を上回る好結果が見込まれています。ここにきて急速に新型コロナウイルスの感染拡大懸念が米国でも広がっていますが、2月半ばころまでは米ダウ平均株価やナスダック総合指数などが史上最高値を更新するなど、リスク警戒の動きは限定的で、それよりも米景気の底堅さへの期待感などが優勢となっていただけに、事前予想の水準はしっくりくるという印象です。

ただ、中国経済の鈍化懸念はすでに広がっていただけに、製造業の景況観悪化がすでに進んでいた可能性は十分にあります。この場合、その後の皿に警戒感が強まっていることが確実な状況だけに、ドル売りにつながりそうです。

続いて、6日に発表される2月の米雇用統計です。

前回1月分は非農業部門雇用者数が+22.5万人と12月分の+14.7万人(速報時点では+14.5万人)、事前予想の+16.5万人を大きく超える好結果となりました。

ただ、年次改定が行われ2018年4月から2019年3月までの雇用者数が51.4万人分下方修正されるなど、厳しい材料もありました。

失業率は3.6%と予想及び前回の3.5%から悪化しましたが、労働参加率が0.2%ポイント上昇し63.4%となったこともあり、こちらは材料視されませんでした(労働参加率が上昇すると、雇用市場が堅調でも失業率は若干悪化します)。

こうした状況を受けて今回の予想ですが、非農業部門雇用者数は+17.5万人が見込まれています。

雇用統計は12日を含む週の数字であり、その時点での新型コロナウイルスの感染拡大懸念は限定的でしたが、1月分の数字が強かった分の反動もあり、少し伸びが鈍化の見込みです。

また、1月は比較的天候に恵まれ、天候要素の大きい建設業が+4.4万人と力強い伸びを見せましたが、一種の特殊要因だけに今回の伸びを鈍化させる形になると見られます。

12月分の数字で強めに出了小売業が、前回は反動もあって0.83万人と比較的小幅ながら雇用減となりましたが、今回はその分の反動でプラスが強まる可能性がありますので、予想を超えてくることも十分にありそうです。

ただ、急速に利下げ期待が広がる中で、強めの数字には反応しにくい面も。一方で予想を下回る弱めの数字が出た場合、すでに広がっている早期の米利下げ期待とも合わせると一気のドル売り加速もありそうです。